

研究課題別中間評価結果

1. 研究課題名： 経験サプリメントによる行動変容と創造的協働
2. 研究代表者： 黄瀬 浩一 （大阪府立大学大学院工学研究科 教授）
3. 中間評価結果

本研究は、英語や物理等の自己学習やスポーツ等、ある人の経験を構造化された経験サプリメントという形に変換して他の人が体験共有できる知的情報処理システムを構築することを目指す。これまでに、体動を伴わない自己学習、体動を伴うスポーツ・エンタテインメント等において経験サプリメントの計測・生成・格納・適用技術の初期の有効性を示した。難関な国際会議 UbiComp に 20 件以上の発表を含む 70 件の論文や国際会議の発表、12 件の受賞、国際的な人材育成策の推進など順調に成果を上げている。自己学習について、ユーザの知識状態（知識の量・質の違い）、技能状態（技能の量・質の違い）、心的状態（集中度、疲労感、緊張度など）を考慮した各状態を測定するコア技術と尺度が提案できた。体動を伴う分野では、リズム学習について、まず体動を伴わない知識・技能を学習後、演奏技能を学習する方が効率がよいことを明らかにした。ジャグリング等では、知識・技能状態だけでは経験データの構造化がまだ不十分であり、集中度・緊張度などの心的状態を含めた認知科学的な解析を強化する必要があることが示唆された。今後、最終目標に向けて、クラウドを介した経験サプリメント・プロトタイプ・システムの構築に期待する。